

日本鐵鋼協會記事

9月26日土曜日講演會狀況 九段坂上東京偕行社に於て日本鐵鋼協會、日本鑛業會聯合にて開催午後6時30分の場日本鑛業會長の開會の辭に始まり工學博士小島甚太郎君「ラメン收銅法」に就て講演せられたり、此講演は瑞典式硫化鑛の處理法にして小島博士は古河家の事業として大阪に於て此新法の創業に盡力され且つ親しく作業に従事研究されたる實際の結果にして收銅と同時に其の鑛滓は鐵原料となるを以て製銅上及製鐵上に最も有益なる講演あり、講演終つて鐵鋼協會々長河村博士聽講者に質問を促す、今泉博士の該鑛滓の製鐵原料としての御意見を述べられ、續いて二三の質問ありて河村會長の閉會の辭併て謝辭あり小島博士は本會の爲め特に大阪より來られ斯かる有益なる御研究を發表されたるを本會の深く感謝する處なり當日出席者約70名頗る盛會裡に同9時散會せり。

理事會 10月7日(水曜日)午後5時開會、出席者河村驍、香村小録、鹽田泰介の諸氏にして協議事項次の如し。(1)第十週年紀念大會細目に關する件 (2)入退會者承認に關する件 (3)其他會務に關する件等なり。

編輯會 10月7日(水曜日)午後5時開會出席者、川上義弘、田中清治、三島徳七、鹽澤正一、杉村伊兵衛の諸氏にして協議事項次の如し。(1)鐵と鋼第11年10號掲載原稿選定の件 (2)創立十週年紀念大會講演論文校正分擔の件。

日本鐵鋼協會創立第十週年紀念大會記事

本會創立第十週年紀念大會は豫定の如く10月17日より20日に至る4日間に亘り何等の支障なく而も最も盛大裡に終了したるは本會の幸慶とする處なり會期中に於ける演說式辭弔詞講演及見學の狀況は近々別冊として第十週年紀念大會狀況報告を刊行し一般會員に配布の豫定なるを以て茲には簡單に概況のみを記述せんとす。

第一日10月17日講演會並表彰式

講演會 帝國鐵道協會講堂に於て先づ講演會を催す定例(午前8時三十分)前より續々會員の參集あり會員には兼ねて準備せる日本鐵鋼協會要録、創立第十週年紀念大會次第、鐵と鋼十年間總目錄、製鐵用術語集、大同電氣より寄贈の雜誌、電氣製鋼第一卷第十號、見學案内圖、出席會員名簿、會員徽章を頒布し又來賓には日本鐵鋼協會要録及創立第十週年紀念大會次第及來賓徽章を配布せり。

講演會 午前9時河村會長の開會の挨拶に續いて直ちに講演に入る先づ谷村工學士の講演に始まり澤村工學士三島工學士の講演を終て石川工學博士の講演中舉式豫定の時刻たる午後2時を報じ商工大臣其他來賓の續々臨席ありたるを以て一時講演を中止して舉式に移れり。

名譽會員推薦並に製鐵功勞者表彰式 午後 2 時先づ河村會長の莊重なる式辭あり名譽會員の推薦は滿場拍手を以て賛同の意を表し表彰狀及賞牌授與は是亦其都度滿堂の拍手急霰の如く起り式に一段の光彩を添へたり次て、片岡商工大臣、古市樞密顧問官、中井八幡製鐵所長官、吉田陸軍造兵廠長官(代續)、井上海軍政務次官 團日本工業俱樂部理事長の祝辭あり、會長閉會を宣す時午後 3 時參列者 200 餘名にして盛況を極む式後一同に別室に於て茶菓を饗し直に豫て準備せる自動車に分乘し芝區増上寺に向ふ。

故製鐵功勞者追悼會 芝區増上寺に於て開催祭壇上には故製鐵功勞者九氏の靈牌を安置し靈前に諸種の供物と河村會長寄贈の一對の生花を配置し午後 3 時 30 分より道重大僧正以下多數僧侶の莊嚴なる讀經あり河村會長先づ追悼の辭を朗讀し次で、片岡商工大臣(代續)、中村樞密顧問官、中井八幡製鐵所長官の弔詞あり遺族來賓一般參列者の焼香あり當日出席者は故功勞者遺族、野呂正恂氏同家族五名、和田幹郎氏、葛一郎氏、葛誠四郎氏、男爵山内志郎氏、横山長次郎氏、田中長一郎氏、(代理)外に來賓及會員 100 餘名にして最も莊嚴裡に追悼會を終了せり。

第二日 (10 月 18 日) 講演會及懇親會

講演會 帝國鐵道協會講堂に於て前日引續き午前 8 時 30 分講演會を開く河村會長開會の挨拶に始まり石川工學博士昨日の講演を繼續し次で本多理學博士、岩瀬工學士、藤井工學士、松下理學博士、大石工學士、平川工學士、長谷川工學士、小原工學士、吉川工學博士、大河内工學博士の順序にて何れも有益にして趣味ある講演あり河村會長講演終了の挨拶を述べ講演會を終了せり、時午後 6 時 30 分なりき本日の聴講者 200 餘名に達し何れも熱心に聴講せられ未會有の盛況を呈せり。

初日講演會は俵博士第二日講演會は本多博士及齋藤博士司會の勞を執られたるは感謝に堪へず。

懇親會 帝國鐵道協會食堂に於て午後 7 時開會晚饗デザートコースに入るや河村會長は立つて一場の挨拶をなし會の前途と參列會員の健康とを祝福する爲め乾杯し一同之に和し次で卓上五分間演説に入り香村小録氏、齋藤大吉氏、今泉嘉一郎氏、俵國一氏、加藤榮氏、朝倉希一氏、盧成章氏、大河内正敏氏、小原春孝氏、大石源治氏、川上義弘氏の順序にて進行し最後に野田鶴雄氏會長の勞を謝する爲め乾杯し一同之れに和す時恰も午後 9 時を報ず會長立つて謝辭を述べ閉會を宣す出席者 50 餘名なり。

第三日 (10 月 19 日) 見學 (本日の見學二班に分つ)

第一班 新潟鐵工所、日本鋼管會社、池貝鐵工所(淺野製鐵部は同社の都合に依り中止)

第二班 小石川陸軍造兵廠、理化學研究所、十條陸軍火工廠。

以上の順序に見學したり當日の見學者數第一班 60 名第二班 50 名にして各工場共非常なる歡迎と見學上の便宜を與へられ一同満足を以て散會せり。

第四日 (10 月 20 日) 見學

埼玉縣川口町 午前中燃料研究所、午後各鑄造所 (1)名古屋 (2)永瀬 (3)關口 (4)増田鑄工所等の順序に見學せり、當日研究所及び川口鑄物同業組合事務所に於て何れも厚遇を受け一同満足歡喜の裡に散會せり本日を以て本大會のプログラム全部を完了せり。